【授業科目】成人急性期看護学実習　　Adult Acute Nursing Practicum

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
吉川 尚美、豊田 妙子、吉田 和枝 大久保 仁司、小寺 直美	３年次 後　期	必　修	３	１３５	実　習	あり	巻末 掲載	否

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／成人急性期看護学実習では、成人期にある人の健康課題に対してライフサイクルを加味し、生命の危機状態や周手術期にある人（以下、急性期にある対象者）とその家族の疾患・病態治療を理解し、早期回復に向けた看護援助に必要となる基本的知識・技術・態度を修得し看護実践能力を養うことを目標とする。そこで本実習では急性期にある対象者を受け持ち、個別的な看護過程の展開、カンファレンスでの議論等を通して急性期における看護援助方法・役割、チーム医療について考えを深める。各病棟だけでなく、受け持ち患者の手術室・ICU での実習及び、救命救急センターでの見学実習も行う。 実習最終日には看護サマリーを作成し、実習の学びを発表・共有する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／日々の実習内容について、口頭での指導および提出された記録類にコメントをつけて返却する。
実務経験に関する授業内容	看護師の臨床経験を持つ教員が、生命の危機状態や周手術期にある患者に対する知識・技術・態度について、既習科目の教材も参考にしながら実践的な指導をしていく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	① 急性期にある対象者の身体的・心理的・社会的側面を把握し、総合的に説明できる。 ② 急性期にある対象者に対して、根拠に基づき病気の経過に応じた看護計画を立案することができる。 ③ 急性期にある対象者に必要な倫理的配慮したうえで、個別的看護実践と評価ができる。 ④ 保健医療チームにおける看護職の役割機能を理解し、多職種と協働・連携を図ることができる。 ⑤ 急性期にある対象者に実践した看護援助を振り返り、自己課題を述べることができる。
時間外学習に必要な内容・時間	※詳細については、実習要項を参照してください。
授業計画	・実習期間は、令和７年９月１６日～令和８年２月２７日のうち１５日間 ・実習時間は、原則として、９：００～１７：００ ※詳細については、実習要項および実習オリエンテーションの配布資料を参照してください。 吉川 豊田 吉田 大久保 小寺
評価方法 評価基準	※詳細については、実習要項を参照してください。
学生への助言等	急性期にある対象者の病態・治療を理解するために、膨大な情報を収集します。それらを瞬時にアセスメントし看護実践につなげていきます。対象者の状態は日々変化するため、状況にあわせて看護計画の修正を行います。患者中心の看護を提供するために、個人およびグループの能力を最大限に発揮してください。目標の到達には全出席を前提としていますので、体調管理に留意してください。